NIAS

Nagasaki Institute of Applied Science

2010
FEBRUARY

学　報

No.94

編集・発行：入試広報課

特集
▶新春座談会
▶地域貢献

2012年　創立70周年を迎えます。

長崎総合科学大学

URL　http://nias.jp/

長崎総合科学大学　新春座談会

～長崎総合科学大学の更なる発展に向けて～

出席者

行徳　威夫	理事長
貴島　勝郎	常務理事、学長、工学博士
慎　　燦益	常務理事、大学院・工学部教授、工学博士
柴口　　温	常務理事、事務局長
山邊　時雄	常務理事、大学院・工学部特任教授、工学博士、新技術創成研究所長、京都大学名誉教授
時津　政憲	理事、附属高等学校校長

新春を迎えるにあたり、「新しい時代を切り拓く」をテーマに、夢に向かって未来を切り拓く学生・生徒の育成と地域貢献、社会貢献に向けた本学の更なる発展について理事長、学長、校長並びに事務局長などによる「新春座談会」を開催した。

今回の座談会のうち、大学並びに附属高等学校の教育・研究についてのコメントを中心に紹介する。

司会　座談会の開催にあたり、まずは理事長より一言お願い致します。

行徳理事長　毎年、学報で年頭所感を掲載し、法人としての運営方針を示し、それを踏まえて学長、校長、事務局長が、教育方針等を各部署で明確にして、ベクトルを合わせて一体感を醸成させるように努めてきました。

今年は「人材育成」と「地域貢献」の使命を全うするために、一大改革の年と位置づけ、実行力強化を図っていきたいと考えています。

司会　長崎総合科学大学は「学生第一主義の活力ある学園づくり」の学園ビジョンを掲げ、「教育力の強化」と「企画・管理部門の強化」に取り組んでいますが、まずは「教育力の強化」についてはどのようにお考えでしょうか。

貴島学長　本学では学士力の向上を重点課題として、学生第一主義の観点から、学生にとって分かりやすい、そして学力が身につくような、また勉学意欲を奮起させるような環境づくりに努めております。今年4月には学内に学習支援センター（仮称）を設置して、補習等による学力向上の徹底や学生が自由に質問または相談が出来る場を提供していく計画です。

幸い、本学は従来就職に関しては安定して高い就職率を保っていますが、社会に貢献し夢に向かって未来を切り拓く人材の育成に更なる努力を重ねているところです。

時津校長　学習支援センター（仮称）の設置は重要だと思います。本学は理系から文理融合の大学となりましたが、文系からの入学生はまだ少ないのではないでしょうか。それは、理数系の科目に不安があり、入学しても卒業出来ないかもしれないという不安が生徒本人は勿論、指導する高校の先生方の中にもあり、避けている部分もあると思われます。大学入学後、それらの学生に対する手立てをとっておられますが、もっと本格的に、これらの学生に対する支援策をとり、安心して本学に入学できる、そして卒業できるシステムを作り、高校側に積極的に知らせた方が良いと思われます。

司会　現在、本学は「やりたい夢　第一主義！」をキャッチコピーとした広報活動を展開しています。そのためにも受け入れ側の大学や高校が教育体制の更なる向上に努めることが大事だと思われますが、この点はいかがでしょうか。

貴島学長　先ず、教員の資質向上が大事です。教員一人ひとりの教育力や研究力を高めていくことが求められております。教員に対してファカルティ・ディベロップメント（FD）を開催し、問題点や改善事項等について検討しているところですが、どのように改善に結び付けていくかが、まだ充分な策が得られていない状況です。今後、その方策について検討することが必要です。

司会　事務局も学生・生徒の人材育成を側面からサポートすることが大事だと思われます。この点はいかがでしょうか。

柴口事務局長　事務局の役割と使命は、本来、学校法人の健全な経営と発展を目

行徳理事長

貴島学長

慎常務理事

柴口事務局長

山邊常務理事

時津校長

指して、その戦略の一翼を担うことです。また、大学並びに高校の教育・研究活動を支援することも重要な責務です。

さらに、学生・生徒が満足するキャンパス環境づくりも大事な仕事です。

教育面においては、カリキュラム、時間割、資格取得、卒業後の進路などについて、所管の部局のみならず事務局全体で学生の目線で支援していきたいと考えています。

また、福利厚生・生活面においても、学生の憩いの場の充実、体育文化活動の活性化など、学生の活動状況と要望を聞きながら、環境整備に努めていきたいと考えています。

司会　体育文化活動については、附属高等学校は活性化が進んでいると思いますが、いかがでしょうか。

時津校長　高等学校は、大学に小嶺忠敏教授が赴任されたことをきっかけに、サッカー、野球、ヨット部を強化指定クラブに指定し、指導者の確保、中学校への広報活動を行っています。

ヨット部は、今年度団体でインターハイ6位、サッカー部は、昨年度長崎地区で3部でしたが、現在、大きく力を付け1部に昇格しています。この生徒達が大学に進学する場合、部活動を続けられることを強く望んでいます。

大学もそれらの生徒の部活動の受け皿として、部活動の活性化をお願いしたいと思っています。大学のヨット部はすでに活躍していますが、これからは、特に、サッカー部の活性化が大きなチャンスに来ているものと思われます。

司会　教育面でも、カリキュラムや卒業後の進路の話題が出ましたが、この点について、具体的にどのようにお考えでしょうか。

行徳理事長　本学を選んでいただいた学生一人ひとりをオーダーメイド教育することを目指し、卒業までにきちんと力をつけていただける教育を実行していく必要があります。4年間しっかりした教育を行い、付加価値をつけて立派な社会人を育成することが大学の重要な使命のひとつです。

すなわち、良い教育をして、本学の卒業生が社会で活躍することこそが、社会における本学の絶対的な信頼と最高の広報力になると考えています。

貴島学長　そのためにも、各学部学科の将来像、それに伴う教育課程（カリキュラム）について、今年中に見直しをするつもりです。

ご承知のように文部科学省並びに日本学術会議において大学生の学士力確保に関する検討がなされており、近い将来には分野別学力の評価が求められるようになると予想されます。本学ではこのことを念頭におきながら、各学部学科の教育すべき科目とそのレベル等を改めて検討した上で、大学全体の教育内容を見直していく計画です。

また、建学の精神に則り、社会に出て実際に役に立つ教育を行うことを基本方針として、〝ものづくり〟を中心とする教育を徹底させるように心がけていきます。

慎常務理事　本学は、再来年には創立七十周年を迎える歴史と、誇れる「建学の精神」、「大学の理念」のもとに教育・研究を推し進めています。教職員全体が常に「建学の精神」と「大学の理念」に基づいて考え、行動し、それを実践していけば、各学部学科の将来像やそれを具現するためのカリキュラムの構築と実践、そして学生が社会人へ成長していく過程において、常に的確な教育と指導を可能にし、延いては学生の「学士力」の担保になるものと確信しています。

司会　社会に出て実際に役に立つ教育は、重要なことだと思います。

そのためにも、教員の研究活動を学生に還元し得る体制や若手研究者の育成に努めることも大事だと思われますがいかがでしょうか。

貴島学長　大学の重要な使命は教育と同時に、研究の面が挙げられます。

本学には非常にユニークな研究をしている教員が数多くおられます。従来、個々に研究を行い、大学としての全体的な研究のポテンシャルを外部に発信することが少なかったように感じています。従って、大学としての研究の柱を立てていくことが大事で、この考え方により、昨年〝東長崎エコタウン研究会〟が発足しました。

これは新エネルギーの開発を始めとしたバイオマスによる液体燃料の開発、あるいはメタンガス精製によるエネルギー供給対応など、学内で研究されている小さな研究課題を大きな取り組みへと発展させて行くことによって、研究成果の社会への貢献、地域への貢献を目標に現在進み始めたところです。

このような今の社会が求めている環境問題、新エネルギー問題等への取り組みが若い人たちへの研究の動機に繋がればと期待しております。

司会　研究成果の社会への貢献、地域への貢献には、産官学連携も重要な事項と考えますが、本学の場合の基本的な考え、取り組み等についてはどのような状況でしょうか。

山邊常務理事　大学での研究成果を如何にして世の中に貢献するかは、大学の存在意義としても大きな役割があります。

幸い本学には種々の研究が進行しており、そのいくつかは、国や地方自治体からも高い評価を受けております。たとえば、先述したように、バイオマス利用によるエネルギー源の開発や下水処理の一環としてのメタンガス発酵技術の検証実験など社会への貢献、地域への貢献に努めているところです。

産官学連携については、情報交換、研究のシーズと社会のニーズとの検討など日ごろからの交流が大事であると考えております。

本学としても、産官学連携センターを窓口にして積極的に連携・交流を図り地域への貢献に役立てていきたいと考えています。

司会　高大連携についてもさらに発展させていく必要性があると思いますが、いかがでしょうか。

時津校長　経済不況、少子化の影響もあり、高卒の就職率や仕事内容が厳しい状況、先々のことを考えたとき、可能な限り大学に進学して欲しいと考えています。

特に附属高校として、本学との連携をさらに深める必要性を感じています。

本学と高校の連携は、2年生全員が、「総合的な学習」の時間で、全学科の大学の先生方の指導を受けていますが、今年度は、新たに、国際交流ということで、本校1年生と大学の留学生との交流を図り、生徒達に好評でした。今後は、1年生にも大学の魅力を伝えられるような連携を図って頂けたらと感じています。

また、本学は、多数の高校生に対して、出前授業や大学に招いて、素晴らしい指導をされていますが、理数系の大学進学者を増やすためには、遅くとも、中学生の時から興味・関心を持たせることが必要であると思われます。中学校への出前授業や大学へ招いて指導することで、大学への関心を高めるとともに、理数離れを少しでも防ぐことになると思います。

慎常務理事　附属高校を大学と併設していることは本法人の強みでありますが、実感としてそう感じていないのが実状ではないかと思われます。大学と附属高校の併設の強みをより生かすために、「総合的な学習」への全学科の積極的な取り組みや労を惜しまない出前講義など、大学と附属高校間で組織的且つ恒常的な協議・連携を強化していく必要があると思います。

また、サッカーをはじめとしてスポーツ特待生、優待生で附属高校に入学した生徒の進路として、大学側がその受け皿となり、継続して指導していける体制を早急に整えることも必要です。

司会　教育力と研究力の強化により「人材育成」と「社会貢献」という大学の使命を果たし、「新しい時代を切り拓く大学」に発展していかねばならないと思います。

そのために、事務局の組織と支援の在り方についてどのようにお考えでしょうか。

柴口事務局長　事務局の各部局が、それぞれの分野の業務の総点検とプライオリティを明確にして、過去の慣行にとらわれず無駄を最大限に取り除き少数精鋭で効率化を図れる業務スタイルを目指したいと考えています。

また、法人の経営方針に対し、事務局から改善・改革案を積極的に提起できるようしたいと思います。

司会　長時間、ありがとうございました。

貢献

東長崎エコタウン研究会

東長崎エコタウン研究会とは？

本学のユニークで先進的な研究成果を広く理解していただくとともに、本学が立地している東長崎地区への貢献、地域活性化を研究しようと、地域の皆様と教職員が一緒になって発足した。

研究会では、本学が得意とする自然・再生エネルギーなど「エコ」をキーワードに、環境にやさしい研究が地域の中でどう役立つかその可能性を探った。

10/21 第１回は産官学連携で進行している自然・再生エネルギーなど環境にやさしい研究テーマ４件の発表があった。

■研究発表

1	多連結浮体システムの研究開発	工学部船舶工学科 池上国広教授
2	環境に優しい船の研究開発	工学部船舶工学科 中尾浩一准教授
3	長総大における農商工連携研究の現状について	環境・建築学部人間環境学科 大場和彦教授
4	超高温可溶化技術を用いたメタン発酵の効率化と有機性廃棄物の資源化	環境・建築学部人間環境学科 石橋康弘教授

はじめに、池上国広教授が「多連結浮体システム」として海洋環境への影響が少ない新形式の海洋浮体構造物と大量貨物輸送を可能とするトレーラー式多連結バージシステムの研究を発表した。

次に、中尾浩一准教授が自然エネルギー（太陽光、風力、ハイブリット技術）を利用した船を紹介し、ハウステンボスにおける太陽光発電を動力とした「ソーラークルーズ船」の開発を発表した。

続いて、大場和彦教授が日本とオランダの農業の違いを例に挙げ農業の概要を説明、大村湾における漁業被害の要因となっている海藻“アナアオサ”を肥料として再利用する研究と事業化について発表した。

最後に、石橋康弘教授が、有機性廃棄物（家畜の糞尿、下水処理場の排出汚泥など）を原料としたメタン発酵で、可溶化菌を用いることによる高効率メタン発酵の研究を発表した。更に今後の事業化に向けた調査で十分期待できる結果が出たことも紹介した。

11/26 第２回は生活に身近な自然エネルギーと住環境をテーマに２件の発表があった。

■研究発表

1	風力発電について	工学部機械工学科　藤川卓爾教授
2	マンション管理と会計 －マネージメント・サービスの視点－	情報学部経営情報学科 三浦正俊准教授

藤川卓爾教授は自然エネルギーの利活用について、我が国の電力需給状況と各種発電の概要について解説、海外で進行している風力発電の事例とそのメカニズムを紹介した。

三浦正俊准教授はマンション管理について、ご自身がマンション管理組合理事長として居住しているマンションの事例を紹介し、建物の維持管理、長期修繕計画と積立金など、マンション管理の課題を説明。収支改善と修繕積立金の確保の重要性を強調し、マネージメントサービスを導入し財政を健全化させる必要性を説明した。

1/27 第３回は急速に開発が進む電池と被爆記録映像をテーマに３件の発表があった。

1	「リチウムイオン電池の現状と将来」	工学部電気電子工学科　山邊時雄教授
2	「燃料電池の高性能化へ向けた研究」	工学部電気電子工学科　田中僚助教
3	「長崎原爆記録フィルムのデジタル化と被爆の実相を「社会的記憶」にするための研究」	工学部電気電子工学科 大矢正人教授

山邊時雄教授は、リチウムイオン電池について今後普及が進む電気自動車への利用を例に挙げ、CO_2削減やスマートグリッド（次世代電力送電網）と組み合わせ、更には街づくりに発展させる可能性について発表があった。

田中僚助教は、燃料電池が触媒層に白金が使用され高価である現状を話し、触媒層をドット化することにより白金使用料を軽減し、発電効率が良くなる燃料電池の開発について発表した。

大矢正人教授は、長崎原爆後の長崎市内を撮影した16ミリフィルムをハイビジョン映像にデジタル処理化する取り組みを説明。経年による色の劣化を復元する技術や課程を解説した。今後は被爆者の方に協力を得て撮影日時や場所を特定し、後世に残す資料とする考えを示した。

環境シンポジウム

環境・建築学部人間環境学科の学生グループ「ISO の家」では勢力的にエコ活動を行っています。他大学の７つの学生グループをお呼びして「環境シンポジウム」を開催しました。

6/27 環境シンポジウム～身近な場所から広げるエコ活動

■事例紹介

1	自分たちの“環境”を楽しくマネジメント ～シンドい事でもオモシロく～	生月菜々子　氏　長崎総合科学大学（ISO の家）
2	エコから広げる地域活性化	羽良　旭人　氏　長崎総合科学大学（ペンギンの町）
3	エコマジック活動の概要	荒木　翔太　氏　長崎大学（エコマジック）
4	崇城大学環境活動サークル　eco active	空岡由希子　氏　崇城大学（eco active）
5	佐賀環境フォーラム～地域・社会との連携～	吉原　小智　氏　佐賀大学（佐賀環境フォーラム）
6	自転車再生委員会2009	石丸　真一　氏　長崎大学（自転車再生委員会）
7	第３回日韓学生つしま会議	吉岡　幸穂　氏　（日韓学生つしま会議）

パネルディスカッション「身近な場所から広げるエコ活動」では、現状の活動や各団体が抱える課題や問題点を討論。地域との連携、運営スタッフの少人数や協力体制、活動資金、などの課題が浮き彫りとなりました。

また、環境意識を高める展開や、参加大学の長所を生かし大学間で協力していくことができないか、など建設的な意見も出されました。

シンポジウムを通して、常に参加者から質問があり活発な意見交換がなされ、環境に対する熱意が高いことを認識しました。

終了後、懇親会が開かれ参加大学間の親睦を深めました。

ぺんぎんの町

環境・建築学部人間環境学科の学生グループ「ISO の家（イソノケ）」では、環境マネジメント ISO14001の認証取得及び内部監査や地域の清掃、学内美化、リサイクルの推進など環境保全に関する活動を行っています。

中でも「ぺんぎんの町」活動では、地元の宿町自治会と協働で古紙・廃油の回収を行っています。古紙回収時に携帯電話の QR コードで戸別管理し重量を測定。集団回収した古紙は助成金で自治会へ収入処理され、その助成金は回収時の重量に応じて、地域通貨のクーポン券「ペギー」として各家庭に還付されます。「ペギー」は宿町の加盟店舗で利用できるという地域循環の仕組み。

高齢者の古紙運搬を手伝ったり、地域通貨へ還元する一連の作業を「ISO の家」が担当しています。

この活動は長崎市の白木町自治会にも波及し、学生が出向いて運営をサポートしています。ぺんぎんの町活動は環境問題への意識向上、地域コミュニケーション環境づくりに大いに役立っています。

特集 地域

戸石子供会が海洋体験学習

長崎市川内町（戸石）子供会が７月18日㈯、本学を訪れ海洋体験学習を行いました。

これは、海洋教育普及推進と地域交流を深めるため、日本船舶海洋工学会の支援で本学海洋スポーツ・文化センターが協力しています。

当日は晴天に恵まれ、児童と自治会長や地区長を含む保護者計24名が参加し、本学所有のヨットやボートに乗船しクルージングを楽しみました。

参加した児童は、艇の操船疑似体験や海洋環境の大切さを体験できたとして大変喜んだ様子でした。

地域行事に参加

日見地区公民館まつり

シーサイドキャンパスに隣接する日見公民館で11月15日㈰、「日見地区公民館まつり」が開催され、人間環境学科の学生グループ「ISO の家（いそのけ）」が参加しました。

参加したのは宿町自治会と協働活動している「ペンギンの町」のメンバーで、「布ぞうり」の手作り体験と販売を行いました。ブースでは大人から子供までたくさん参加し、学生達の指導のもとぞうり作りに熱中している様子でした。

まつりでは公民館講座の作品展示や亭茶、舞台発表などがあり、出店や出し物で賑わいました。

矢上団地秋の収穫祭

矢上団地近隣公園で11月３日㈫、「秋の収穫祭」が開催され、機械工学科の藤川卓爾教授と学生が参加し「ミニ風車つくり」を実施しました。ブースでは画用紙とボール紙、ストローを材料に沢山の子ども達が熱心に取り組み、31台の「ミニ風車」が完成しました。

この風車は藤川研究室の学生が設計したもので、小学校低学年の子どもでも簡単に作ることができ、口で吹くだけでよく回るもの。先に行われた長崎市や大村市の小学生向け科学教室でも大活躍しました。

人間環境学科学生が地域清掃

人間環境学科の学生は、毎月第二日曜早朝に、シーサイドキャンパスに隣接する日見公園周辺を清掃する活動を行っています。

また、地域の宿町自治会の清掃や、８月の市民大清掃、キャンパス内の清掃活動を展開しています。

この学生達の頑張りは、今では地域の欠かせない戦力となっています。

住吉神社祭礼に学生が参加

グリーンヒルキャンパスそばの住吉神社において11月１日㈰、祭礼が執り行われ、船舶工学科の脇山祐介講師と学生４名が地域文化交流として参加しました。

当日は地元の有志により雨よけの準備をして待機しておりましたが悪天候となり、急遽肥前屋の２Ｆを祭礼の場としてセッティングすることになり、学生含めて雨の中濡れながらの作業となりました。

交流会においては、住吉神社奉賛会会長様より、「地域文化交流で学生がお手伝いしていただいたことは大変嬉しい。」とのお言葉を頂戴し、参加した学生も「貴重な文化交流ができて意義のある一日を過ごせてよかった。」との感想を話していました。

日見小学校３年生と留学生との交流会

日見小学校３年生と本学の留学生12名との交流会が３月11日㈬、日見中学校武道場で行われました。これは総合的な学習の一環として、日見小学校からの要請で実施し、留学生との交流を通し、それぞれの国の文化や言語に関心を持たせ、遊びや活動を通して、多くのコミュニケーションをとることがお互いの理解のために大切であることを気付かせる目的で行われています。

留学生は小学生と一緒に、「上を向いて歩こう」の合唱や、「かるたとり」「お手玉」「はねつき」「けん玉」などグループに分かれて日本の遊びで交流しました。

子供たちは、“コロンビアの世界遺産はなに”と質問したり、ミャンマー語で自分たちの名前を書いてもらったり、母国語でサインを求めていました。

公開講演会

2009年度長崎総合科学大学公開講演会を７回に亘り開催しました。多数の一般市民・関係者・学生・教職員の参加のもと無事終了することができました。

10月31日 『建築と構造デザインの可能性』

基調講演を世界的に活躍されている建築構造家・法政大学教授佐々木睦朗氏が「構造デザインの現在」と題し、建築構造全体を複数の観点から検証し、いろいろな要素が混ざり合いデザインができ上がることを解説。線と面を基調とした建物や、シェル構造の建物など、独創的で大胆な建築構造物が次々とスライドで紹介され、そのユニークさと規模の大きさに会場は圧倒された。

佐々木氏と林一馬教授による“トーク”は、「建築と構造デザインの可能性」と題し、建築構造物の構想から実現までの進め方などを説明。現代社会の多様化や石油の枯渇が問題化される中、人間がいかにあるべきかと建築がどうあるべきかとは繋がっていると示し、古代建造物や空間利用を例に挙げ、次世代の建築の役割についてディスカッションした。

11月28日 『電子技術が担う医療の高度化』

基調講演を「電子技術が担う医療の高度化」と題し、九州大学医学研究院教授　橋爪誠氏が、人体に負荷の少ない内視鏡治療の現状と最新の手術技術について講演した。

続いて「光学医療と医用工学機器の応用」と題し、長崎大学医学部歯学部付属病院光学医療診療部　磯本一氏が、内視鏡治療とその種類、構造、治療方法について、実際の内視鏡のビデオ映像を紹介しながら講演した。

パネルディスカッションでは「医療の高度化に伴う技術者の育成」と題し、臨床工学技士の意義、医師・看護士とのチーム医療の重要性を強調した。更に医療機器のハイテク化による臨床分野進出の可能性や、臨床工学技士の役割と期待についてディスカッションした。

9月7日 『繋がろう明日へ！ ―考え感じる人材を育てるために―』

基調講演を藤澤雄一郎情報学部経営情報学科教授が「繋がる力」と題し、企業間の連携、産業間の連携など社会的に起こっている現象を実例に、企業組織におけるチームワーク、人間力を高めることの大切さについて講演した。

事例発表が３件用意され、永田鉄工㈱永田孝範氏が「繋がる職場」―鉄工所らしくない鉄工所を目指して―、次に永田鉄工㈱石井竜太氏が「わが社の AOGU 活動」―明るく面白おかしく皆で成長―、最後に情報学部経営情報学科４年田中真義君が「繋がるゼミ」―人間力を学ぶ―と題し事例発表を行った。

12月4日 『持続可能な開発のための教育（ESD）と地域づくり』

基調講演を国際連合大学高等研究所上席研究員　名執芳博氏が「何故今 ESD なのか？」と題し、世界各地で起こっている人口増加、食糧不足などの諸問題（社会、経済、環境）を挙げ、その課題や問題を解決するための ESD（持続可能な開発のための教育）の意義および必要性を解説し、宮城県やアフリカ諸国など国内外で普及活動に取り組んでいる ESD の実例を発表した。

パネルディスカッションでは「持続可能な開発のための教育（ESD）と地域づくり」と題し、市民・行政・大学の分野からなる６人のパネラーが、各々の地域づくりや町おこし、環境への取り組みなど地域密着型の活動について ESD を捉えてディスカッションした。

10月10日 『これからのロボット技術と福祉工学』

基調講演を厚生労働省福祉工学専門官（初代）小野栄一氏が「福祉の現場からみたロボット技術の課題」と題し、福祉現場で必要とされる現在開発中の介護支援ロボットや食事搬送ロボット、新型車椅子などをビデオ映像で紹介、障害者支援とロボットの概要について事例を交えて説明した。

パネルディスカッションでは、「ロボットと人間の未来」と題し、本学でのロボット研究や離島医療のための医療機器開発についての取り組みを紹介。開発の過程において判明したユーザーのニーズに応えること等をポイントに挙げた。また、厚生労働省の支援事業の仕組みについても説明され、ロボット開発と普及、今後の可能性について意見交換した。

12月13日 『市民発、軍縮・平和へのアプローチ ～対人地雷・クラスター爆弾禁止条約から次の展開へ～』

中央大学総合政策学部教授　目加田説子氏が『市民発、軍縮・平和へのアプローチ　～対人地雷・クラスター爆弾禁止条約から次の展開へ～』と題し、世界で起こっている紛争や諸問題、軍縮運動で活発に拡大している市民社会セクターの役割の重要さを話した。

クラスター爆弾について仕組みや特徴を説明し、不発弾が対人地雷化している実情と問題を指摘、その禁止条約を中心に、軍縮にかける意義、民間団体の役割の重要さを、熱意を持って会場に訴えた。

講演終了後質疑応答が行われ、日本での市民社会セクターの活動状況、クラスター爆弾の犠牲者支援、など会場から活発な質問が相次いだ。

10月30日 『「ものづくり」の現状と未来』

基調講演を長崎県科学技術振興局長中村修氏が「地域振興を支える科学技術」と題し、長崎県における産業構造、経済の現状と課題、研究機関を取り巻く改革プランおよび、水工・農工・医工連携分野を支援する立場を紹介した。

特別講演は、株式会社アポロン代表取締役彌永真氏が「『ものづくり』が日本を支える！」と題し、わが国の製造業を軸にどのように「ものづくり」が変わってきたかを説明。またご自身も発電用蒸気タービン設計やマイクロソフト社のビルゲイツ氏との漢字パソコン開発についても披露された。

他に本学大学院博士課程の社会人学生による研究発表が３件行われた。

2009年 NIAS 10大NEWS

「人間環境学部環境文化学科」と「工学部建築学科」の２つの学科が合体し、環境に優しい、暮らしやすい未来のために2009年４月、新たに「環境・建築学部」を開設。

環境・建築学部開設

就職に強い NiAS 今春卒業生の就職内定率98.1% 全国平均を大きく上回る

2008年度（平成20年度）本学卒業生の就職内定率は、全国平均および長崎県内大学生平均を大きく上回る98.1%を達成した。このうち、工学部の内定率は３年連続100%を達成。特に船舶工学科は６年連続で内定率100%。

長崎総合科学大学第16代学長に、貴島勝郎（きじまかつろう）氏が就任。宮崎県出身。工学博士。九州大学名誉教授。専門は船舶工学。任期は、平成21年４月１日～平成23年３月31日までの２年間。

第16代学長に 貴島勝郎氏が就任

「NHK 大学ロボコン」でベスト８！デザイン賞と特別賞をダブル受賞

「NHK 大学ロボコン2009～ABU アジア・太平洋ロボコン代表選考会」においてベスト８進出。デザイン賞と特別賞（トヨタ自動車株式会社）を受賞した。ダブル受賞は本学のみ。（詳細10Ｐ）

認証評価 日本高等教育評価機構より認定される

長崎総合科学大学は㈶日本高等教育評価機構の平成20年度大学機関別認証評価において、同機構が定める大学評価基準を満たしていると認定された。

認定期間は平成20年（2008年）４月１日から平成27年（2015年）３月31日まで。

学生の交通アクセスの利便性と交通費負担の軽減を図ることを目的として送迎バス
①長崎線（JR 長崎駅～本学）
②諫早線（JR 諫早駅～本学）

の運行を開始！

大学生専用のスクールバス運行を開始

坂井正康新技術創成研究所特任教授と農林水産省の委託研究として農研機構と共同開発した『農林バイオマス３号機』が、平成21年度に農林水産省が実施する「地域資源利用型産業創出緊急対策事業」で実用機として推進される。

（詳細８Ｐ）

農林水産省の委託研究で開発された「農林バイオマス３号機」が実用化へ向かう

経済産業省「平成21年度低炭素化社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」に採択される

経済産業省の平成21年度「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」に環境・建築学部の石橋康弘教授を中心とした産官学連携事業「超高温可溶化技術を利用した高濃度メタン発酵システムの実証」が採択された。（詳細８Ｐ）

大学ヨット部の２名が「全日本学生ヨット個人選手権大会スナイプクラス」及び「全日本スナイプ級ヨット選手権大会」に出場。

附属高等学校ヨット部はインターハイ「まほろば総体」男子ＦＪ級デュエットで６位入賞。男子ヨット部２名は９月に新潟県で開催された国体にも出場。（詳細11Ｐ、13Ｐ）

大学ヨット部及び附属高等学校ヨット部が全国で活躍

文部科学省「平成21年度大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムにおいて、本学の「地方大学における就職支援」の取り組みが採択された。

文部科学省「平成21年度大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択

2008年度（平成20年度）法人の財務状況

貸借対照表　平成21年３月31日現在

（単位　百万円）

資産の部		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	
科　目	金　額	科　目	金　額
固定資産	10,141	固定負債	1,054
有形固定資産	8,602	流動負債	436
その他の固定資産	1,539	基本金	13,218
流動資産	864	消費収支差額	△3,703
資産の部合計	11,005	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	11,005

新任教員紹介

①名前　佐藤雄一郎（さとう ゆういちろう）
②所属・職名　共通教育センター　講師
③趣味・特技など　野球
④抱負など一言

法律学は条文を暗記する学問などではなく、論理的思考を養う学問です。

私の講義やゼミでは、全国どこの大学の法学部の学生と比べても遜色ない論理的思考能力が身につくように、時に厳しく指導していきますので、やる気のある学生は是非チャレンジしてみてください。

2008年度　資金収支計算書　2008年４月１日から2009年３月31日まで

（単位：百万円）

収入の部 科　目	金　額	支出の部 科　目	金　額
学生生徒等納付金収入	1,389	人件費支出	1,460
手数料収入	16	教育研究経費支出	465
寄付金収入	13	管理経費支出	152
補助金収入	443	借入金等利息支出	11
資産運用収入	28	借入金等返済支出	56
事業収入	147	施設関係支出	3
雑収入	70	設備関係支出	26
前受金収入	293	その他の支出	68
その他の収入	235		
資金収入調整勘定	△361	資金支出調整勘定	△42
前年度繰越支払資金	692	次年度繰越支払資金	766
収入の部合計	2,965	支出の部合計	2,965

2008年度　消費収支計算書　2008年４月１日から2009年３月31日まで

（単位：百万円）

収入の部 科　目	金　額	収入の部 科　目	金　額
学生生徒等納付金	1,389	人件費	1,414
手数料	16	教育研究経費	670
寄付金	20	管理経費	169
補助金	443	借入金等利息	11
資産運用収入	28	資産処分差額	23
事業収入	147		
雑収入	75		
帰属収入合計	2,118		
基本金組入額合計	△62		
消費収入の部合計	2,056	消費支出の部合計	2,287
		当年度消費支出超過額	△231
		前年度繰越消費支出超過額	△3,472
		次年度繰越消費支出超過額	△3,703

産官学連携

『農林バイオマス3号機』が実用化される

坂井正康教授

このほど、坂井正康新技術創成研究所特任教授と農林水産省の委託研究として農研機構と共同開発した『農林バイオマス3号機』が、平成21年度に農林水産省が実施する「地域資源利用型産業創出緊急対策事業」で実用機として推進されることになった。

案件は公募中で、「農林バイオマス3号機等の新技術」が条件となっており、「農林バイオマス3号機の技術」は農林水産省が推進する国の代表的技術と位置付けられた。

補正予算凍結・事業見直しなど政権交代による影響もなく、本事業については計画どおり行われることになった。

『農林バイオマス3号機』は世界最高クラスの電力変換効率を持つ設備で、離島などの条件不利地域に設置することにより、農産物の非食用部分、間伐材などを燃料源として、高効率ガス発電が可能になる。

この技術の最大の特長はバイオマスをガス燃料に転換する新しい浮遊外熱式ガス化法にあり、生成されるガス燃料はこれまでに見られない高品位で、化学合成原料とすることもできる。つまり、非食料の草木バイオマスを原料にして液体燃料（メタノール、エタノール等）を化学合成によって製造できる。

現在は、電力と液体燃料（メタノール）合成併用プラントとして250kWクラス実用機計画を進めている。平成22年度中には実用プラントがお目見えする予定である。

地域の電力・液体燃料を供給することができ、エネルギーの地産地消を可能にする『農林バイオマス3号機』技術が実用期に入る。

また、「バイオマス活用推進基本法」や「農林漁業有機物資源のバイオ燃料の原材料としての利用の促進に関する法律」なども整備化され、今後バイオマスがますます利活用され、『農林バイオマス3号機』技術の動向が注目される。

メタンガス高効率発酵プロジェクトが始動

石橋康弘教授

経済産業省の平成21年度「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」に石橋康弘環境・建築学部人間環境学科教授を中心とした産官学連携事業「超高温可溶化技術を利用した高濃度メタン発酵システムの実証」が採択された。

この事業は、下水処理に付随して発生するメタンの発酵・ガス化を少ない消費電力で可能にする、新技術（超高温可溶化技術）の開発及び実証を行い、下水処理場の「エネルギー生産工場」化を目指すもの。

技術要素、自治体の参画など実証体制も充実しており、長崎総合科学大学が管理法人となり、本学、北里大学、㈱九電工、㈲メガテック、バイオガス・ネット・ジャパン、長崎市役所とも連携し実証試験を実施する。既に東長崎地区の東部下水処理場内においてメタン発酵処理施設の設置も完了しており、今後は試験と実証評価を行う。環境にやさしい低炭素社会の実現に向けて実証試験に取り組む。

尚、この事業に関して、本学の貴島学長、山邊新技術創成研究所所長、石橋教授らが長崎市の田上市長と長崎市役所で会談し、相互に協力していくことを確認した。

長崎市長との会談の様子

大村湾の海藻「アナアオサ」を肥料化し事業を創出

大場和彦教授

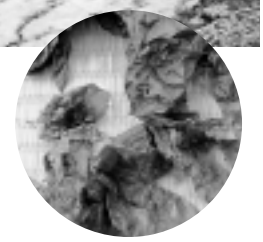
大場和彦環境・建築学部人間環境学科教授は、沿岸自治体や㈲アグリサポートと協力し、長崎県大村湾で大量繁茂し漁業被害が問題化している海藻を肥料化する研究を進めている。

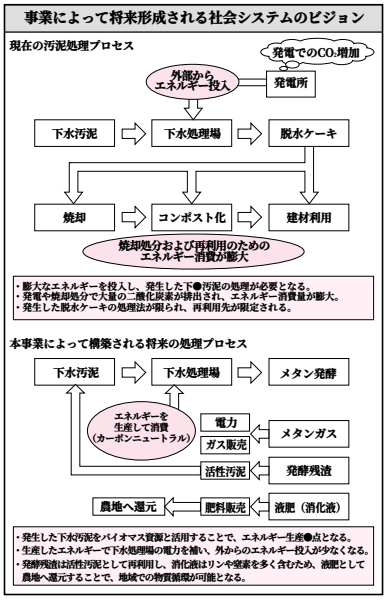
長崎県の大村湾では「アナアオサ」という海藻が大量繁茂し、漁船のスクリューに巻き込んだり、沿岸に漂着してヘドロ化し悪臭を放つほか、その処理費用負担など漁業者や関係団体にとって地域環境問題になっている。

大場教授はこのアナアオサがミネラルなど栄養成分を多く含まれていることに着目し、これを堆肥化し肥料として販売することを視野に入れ、海洋環境の浄化・改善や沿岸自治体の負担軽減を図ろうとしている。

現在は理化学的に肥料試験を進め、試験段階ではアナアオサの肥料で作った作物は生育良好であったことが確認されている。

今後は㈲アグリサポートと連携し事業化に向け回収に伴う手間や人件費などのコストの削減の課題に取り組む。





事業によって形成される社会システムのビジョン

産官学連携センター

産官学連携センターは、産官学連携事業を全学的かつ組織的な取り組みとして積極的に展開し、受託研究や共同研究の推進、知的財産権の取得と活用、新技術・新事業の創出等によって、本学の研究成果を社会へ還元し、地域産業の発展に寄与することを目的とします。

「技術相談」「起業支援」「共同研究」「受託研究」「奨学寄附金」

産官学連携センター

窓口 研究助成推進課

TEL：095－838－5116・5200

FAX：095－838－3157

Topics

TOPICS ❶ 「長崎県発明くふう展」で 電気電子工学科医療電子コースの 川添准教授が長崎県議会議長賞を受賞

第57回長崎県発明くふう展（主催：㈳長崎発明協会）の表彰式が11月25日㈬、長崎工業技術センター（大村市池田）で行われ、川添薫准教授・工学部電気電子工学科医療電子コースの発明作品が長崎県議会議長賞（優秀賞）を受賞した。

川添准教授が受賞した発明は「球状ブラシ吸引型内視鏡ブラッシング洗浄装置並びに該装置に用いる球状ブラシ」で、医療機関で使用されている胃カメラなど内視鏡の汚染物質（患者の血液・粘液等）を除去する洗浄装置。現在実用化され海外の医療機関でも使用されている。

TOPICS ❷ 長崎原爆被害記録フィルムの デジタル化に研究着手

長崎原爆被害記録フィルムのデジタル映像化に取り組んでいる、大矢正人工学部電気電子工学科教授と長崎平和文化研究所の研究グループ5名が、このほど長崎原爆資料館が保管する16ミリフィルムをハイビジョン映像としてデジタル化した。

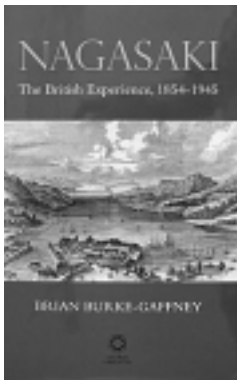
これは被爆後の長崎の被災映像を米国戦略爆撃調査団が撮影した16㎜のカラーフィルムで、後世に残す記録として学術的価値に着目、3年計画のテーマとして研究に取り組む。

デジタル化作業は東京の映像会社に依頼し、色の変色や劣化の修正を行い、当時の映像としてはリアルな映像に仕上がった。

この研究成果については全国ニュースで報道され、マスコミ各社から取材が相次いだ。

被爆記録映像デジタル化の研究を進める大矢教授

TOPICS ❸ バークガフニ教授、 日英交流史旧居留地、 世界に紹介



旧外国人居留地の歴史を研究する環境・建築学部長のブライアン・バークガフニ教授がこのほど、著書「NAGASAKI The British Experience, 1854-1945」を英国のグローバル・オリエンタル社から出版した。

長崎での日英交流史を、トーマス・グラバーやフレデリック・リンガーら、日本の近代化に貢献した英国人の居留地での活躍を通して、まとめた本。

TOPICS ❹ 建築学科の山田由香里准教授が 日本都市計画家協会楠本洋二賞の 最優秀賞を受賞

環境・建築学部建築学科の山田由香里准教授が日本都市計画家協会楠本洋二賞の最優秀賞を受賞した。日本都市計画家協会が若手都市計画家のために今年度初めて設けた学会賞で、山田准教授が第一号の最優秀賞受賞となった。

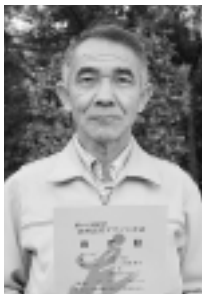
山田准教授の今回の論文「平戸の町並み調査とまちづくり―オランダ商館復元、そして歴史環境再生へ」は、平戸オランダ商館跡地や歴史建造物が多い平戸の町並み調査や、調査報告かわら版の配布や建造物の説明プレート設置などの実践、更に町全体の整備計画、住民による自主的な動きに発展するに至るまで携わったことを解説している。

歴史的文化財保護に加え町並みの再生や活性化、住民協定の成立などの実践活動を高く評価され今回の受賞となった。

楠本洋二賞最優秀賞を受賞した山田准教授

TOPICS ❺ 防府読売マラソン― 宮副先生、 長崎県勢最高齢で 25回目の完走

工学部電気電子工学科の宮副文雄助手が12月20日、山口県の防府市陸上競技場を発着点に開催された「第40回記念　防府読売マラソン大会」に長崎県勢で最高齢で出場し、3時間50分17秒の1059位でゴール。マラソンで25回目の完走を果たした。先生のチャレンジは読売新聞の記事でも紹介された。



表紙モデル紹介

人間環境学部　環境文化学科３年
（神奈川県／函嶺白百合学園高校出身）　**伊藤　舞さん**

遠く離れた関東から、長崎総合科学大学へ入学。環境文化学科に所属し、現在は、長崎の歴史人物に関する追跡調査、古写真や絵はがき、旧外国人居留地に関する学術研究の第一人者、ブライアン・バークガフニ教授のゼミで、「長崎の歴史・文化」について研究中。大学案内パンフレット「NiAS Style Part.4」で坂本龍馬に扮し、長崎市内ロケを実施。表紙は龍馬の活躍拠点となった亀山社中記念館での撮影画像。

Photo Kyoji Fujimori

TOPICS ⑥「NHK大学ロボコン」でベスト8！デザイン賞と特別賞をダブル受賞

6月7日㈰「NHK大学ロボコン2009～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会」が、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室にて開催され、長崎総合科学大学「N・iAS夢工房」（リーダー：藤井孝行君　情報学部知能情報学科4年、顧問：谷昇共通教育センター教授）が、見事、デザイン賞と特別賞（トヨタ自動車株式会社）を受賞した。ダブル受賞は本学のみ。

今回10回目の出場で初優勝を狙った本学「NiAS夢工房」は、予選リーグで強豪の東京大学と対戦するなど、1勝1敗の成績で、「ワイルドカード（予選2位の最高順位）」で決勝トーナメントに進出。準々決勝で金沢工業大に惜敗し、ベスト8だった。

長崎総合科学大学「NiAS夢工房」は九州の私立大学で、今回唯一出場し、大健闘した。

対戦の様子

本学「NiAS 夢工房」チーム

TOPICS ⑦国産旅客機 YS－11型機の胴体部分が宇宙航空研究開発機構（JAXA）より本学へ提供される

かつて日本の空で活躍した国産旅客機YS－11の胴体部分が10月16日㈮、グリーンヒルキャンパス1号館1階工作室へ搬入された。

これは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）様より研究用として工学部機械工学科へ提供戴いたもので、YS－11の胴体後部の一部（輪切り）直径2.9m、長さ約3.5mという大きなもの。今後この研究胴体は、機械工学科の航空工学分野で複合材料や構造強度、各部位の残余強度評価等の研究で活用される。

航空工学分野での研究に用いられる YS－11型機の胴体部分

TOPICS ⑧就職支援「合同企業面談会」を開催

合同企業面談会の様子

真剣に説明を聞く学生達

長崎総合科学大学主催の合同企業面談会（A日程）が12月16日㈬、ホテルニュー長崎にて開催された。これは、学生の就職支援を目的に毎年開催しているもので、今年で10年目。主に平成22年3月卒業見込者（現3年生）を対象としている。

厳しい雇用情勢が叫ばれる中でも、採用計画がある九州圏外の企業74社が参加。学生も3年生を中心に250名を超える参加があった。

各ブースでは、採用担当者が業務内容や採用計画について資料や映像を示しながら説明し、学生は真剣な表情で面談に臨んでいた。また本学の卒業生が採用担当者として参加しているブースも見られた。

会場では、学長をはじめ教員も多数出席し、企業との情報交換に積極的にブースを訪ねていた。

なお、2010年2月8日㈪の合同企業面談会（B日程）では、九州圏内の企業73社が参加し同様の面談会を開催した。

本学では「学生第一主義の活力ある学園づくり」の学園ビジョンのもと、学生の就職・キャリア形成支援についても、積極的なサポートを実施しており、これまで築かれてきた企業との信頼関係により、毎年全国平均を上回る高い就職内定率（2008年度98・1％）を誇っている。

TOPICS ⑨学園祭「第46回造大祭」を開催

ゲスト LIVE

11月7日㈯、8日㈰の2日間、学園祭「第46回造大祭」が開催された。今年のテーマは「HIGH祭～網場の町からこんにちは」。

メイン会場のグリーンヒルキャンパスでは、学生が運営する模擬店をはじめ、BINGO大会、ゲストLIVE、音楽系サークルのLIVE、沖縄県人会によるエイサーの演舞などのほか、各学科の展示や体験教室、サークルによる展示も実施された。

7日には「ダンスバトル2009」が開催され、世界的なプロダンサー「ISOPP（イソップ）」が登場！造大祭が一段と盛り上がった。

シーサイドキャンパスにおいてもシーサイドフェスティバルが開催され、地域の自治会とも協力したイベントや木工教室、廃油を利用して作成したキャンドルの点灯等が行われた。

学生によるソーラン節演舞

TOPICS ⑩「2009柳川ソーラーボート大会」で船舶工学科の学生チームが入賞

「2009柳川ソーラーボート大会」（大会実行委員会主催）が8月1日㈯、2日㈰の両日に福岡県柳川市で開催され、本学工学部船舶工学科の「夢の船研究会」が、スラロームレースで3位入賞、周回レースで4位入賞という好成績を収めた。

参加した本学学生と顧問の林田滋教授

レースの様子（左奥が本学の艇）

TOPICS ⑪「ETロボコン2009九州地区大会」NXT競技部門で4位！

「ETロボコン2009九州地区大会」（主催：社団法人 組込みシステム技術協会 9月5日㈯開催 於：福岡SRPセンタービル 2階SRPホール）に長崎県勢として初参戦した本学学生チーム「NiASET（ニアセット）」がNXT競技部門で企業、個人、大学等48チーム中4位の好成績を収めた。

「ETロボコン」とはロボットに組み込むソフトウェア技術を競うコンテストで「二輪型倒立振子ロボット」という難易度の高い自律移動型ロボットで、このロボットの部品一つひとつから組み立て方まで規定されており、全く同じハードを使って競うのが特徴。

今回、情報学部知能情報学科（リーダー：成川聖太郎君、指導教員：下島真准教授）の学生が中心となり、「NiASET（ニアセット）」を結成し、この難易度の高い技術を駆使した大会にチャレンジした。

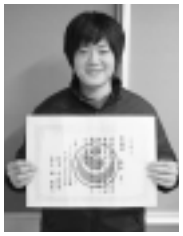
TOPICS ⑫ 新極真空手部の岡田秀一君が九州空手道交流大会で準優勝

本学新極真空手部の岡田秀一君（工学部船舶工学科1年生）が11月22日に佐賀県の鳥栖市民体育館で開催された第24回九州空手道交流大会（主催：新極真会九州地区支部／道場）において、一般上級の部で見事準優勝に輝いた。

トーナメント方式で開催された一般上級の部は、大学生以上の経験豊富な強豪が揃う最もハイレベルな部門。16人がエントリーするなか、大健闘し決勝まで勝ち上がった。

岡田君は身長178センチ。得意技は膝蹴り。高校入学から新極真空手を始め、今も毎日練習を続けている。

今回の試合について、岡田君は「初戦から接戦続きで危ない試合もあったが、なんとか決勝まで勝ち上がることができたので、決勝で敗れはしたものの内容的には満足している。今回の大会は次につながるものだったと思います。」と振り返りながら、今後の大会に向けて更なる飛躍を誓ってくれた。



準優勝に輝いた岡田秀一君

TOPICS ⑬ 本学ヨット部員が大活躍 全国大会に出場！

本学ヨット部の部員が大活躍。ヨット部主将の石田翔大君（船舶工学科2年生）と部員の森安雲さん（電気電子工学科医療電子コース1年）の2名が、第62回全日本スナイプ級ヨット選手権大会（11月11日㈬～11月15日㈰、愛知県）に出場した。

2人は、9月に鹿児島県で開催された九州スナイプ級ヨット選手権大会にそれぞれ卒業生とペアを組んで出場し、好成績を収め、全国大会への出場権をつかんだ。

全国大会に出場した石田君（右）と森さん（左）

8月にも愛知で開催された2009年度全日本学生ヨット個人選手権大会スナイプクラスに、ペアを組み出場した。2人とも高校時代からヨット競技に取り組んでおり、今後も活躍が期待される。

話題人

「2009CACS International Automatic Control Conference」でBest Paper Award を受賞した知能情報学科の安田元一教授

情報学部知能情報学科の安田元一教授がこのたび「2009 CACS International Automatic Control Conference」でBest Paper Award を見事受賞した。安田教授に詳細と今後の抱負などについて伺った。

受賞論文タイトル

Distributed Control of Robotic Manufacturing Systems using Petri Net Based Multitask Processing

論文の概要

本論文は、複数のロボットや知能化機器により構成されるロボットシステム全体の動的モデル化から、モデルに基づくロボットアクチュエータの分散制御までを統一的に実現する手法を提案したものです。

本手法は、協調や競合を含む並列分散システムのネットワーク表現を基礎としており、動作検証を行った生産システムだけでなく、これから期待される家庭内など一般生活の場における大規模、複雑なロボットシステムのデザイン、運用、制御に対しても適用可能なものです。

論文内容による査読審査が繰り返し実施された結果、Best Paper Award に選出されました。講評により、提案した手法の革新性と未来への応用の可能性が高く評価されたと考えています。

受賞した国際会議の正式名称

2009 CACS International Automatic Control Conference（主催 Chinese Automatic Control Society、期間 November 27～29、2009）

概要

制御理論からロボットをはじめとするあらゆる分野での応用まで、自動制御工学全般をテーマとする、年1回開催の国際会議

受賞日と場所

11月28日 National Taipei University of Technology（国立台北科技大学）

安田教授の感想と今後の抱負

受賞以来、自動制御工学という大きな学問分野で世界の頂点をうかがう位置に立ったことを実感しています。世界に向けたアピールとしてもこれ以上のものはありません。

ロボットの世界では、ロボット単体だけではなくロボット群や人間も含めたロボット社会の工学的デザインの研究はまだこれからであり、私にとってはライフワークでもあります。この受賞を励みに、ロボット未来学の開拓者として世界の頂点で貢献していくことに全力をあげる所存です。

TOPICS ⑭ オープンキャンパスを開催しました！

2009年度のオープンキャンパスを8月、9月、11月に開催。11月と12月にはミニ・オープンキャンパスも実施し、多くの高校生、保護者の方々に来場いただきました。

今後、個別に大学見学等を希望される場合には、気軽に入試広報課までお問合せください。

☆問い合わせ先：長崎総合科学大学入試広報課
フリーダイヤル：0120－801－253
E-MAIL: adm@NiAS.ac.jp

全国高校生アイデアコンテスト

今年もたくさんの高校生の皆さんに応募していただき有り難うございました。

■第5回 デジタルメディアコンテスト

◇デジタルアート部門
テーマ「希望」

最優秀賞　平田　葵さん
宮崎県立佐土原高等学校　2年

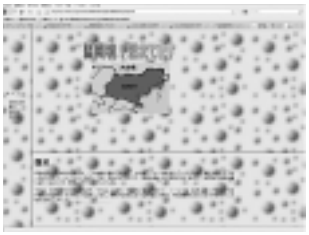
優秀賞　畑　幸江さん
三重県立四日市工業高等学校　2年

優秀賞　浜中　和さん
大分県立竹田高等学校　3年

◇ホームページ部門

最優秀賞　新宮　正太郎さん
眞鍋　諭さん
宮崎県立佐土原高等学校　3年

優秀賞　徳永　かずえさん
佐藤　友さん
山口　真奈美さん
村上　栄里香さん
那珂川町立福岡女子商業高等学校　3年



優秀賞　島田　博紀さん
甲斐　誠也さん
黒木　真実さん
宮崎県立延岡工業高等学校　3年

■第12回 設計アイデアコンテスト

テーマ：「ちょっと一息つけるスペース」

最優秀賞　岩下　勇人さん
山梨県立甲府工業高等学校　3年

優秀賞　宮崎　梓さん
山梨県立甲府工業高等学校　2年

優秀賞　伊藤　あずささん
三重県立四日市工業高等学校　2年

11／7本学で開催されたアイデアコンスト表彰式後の記念撮影

附属高等学校 NEWS

☆ヨット部がインターハイで６位入賞

本学附属高等学校ヨット部は、６月に開催された「県高総体」で優勝し、さらに８月に和歌山セーリングセンターで開催された「まほろば総体」において、男子 FJ 級デュエットで見事６位入賞を果たした。男子ヨット部２名は９月に新潟県で開催された「トキめき新潟国体」へも出場した。

ヨット部写真は今年度高総体

☆ライブラリーフェスティバルで優秀賞受賞

平成21年度　第６回ライブラリーフェスティバルが11月12日、大村市の県教育センターで開催され、本学附属高等学校が広報誌と図書館 PR 大賞の両部門で優秀賞を受賞した。

附属高校図書部員が放課後に知恵を出し合って作成した力作

☆サッカー部 県大会出場とⅠ部リーグ昇格を決める！

「全国高等学校選手権大会　長崎地区予選　Ⅱ部リーグ戦」が８月に実施され、本学附属高等学校サッカー部が３勝１分けで県大会出場を決め、さらにⅠ部リーグへ昇格することが決定した。サッカー部は高校サッカー界の重鎮　小嶺忠敏本学経営情報学科教授が総監督に、国見高校時代に選手として日本一を経験した定方敏和教諭が監督に着任後、めきめきと頭角を発揮しており、今後の更なる活躍が期待される。

☆長崎県高等学校総合文化祭で 美術部と写真部が活躍

平成21年度　長崎県高等学校総合文化祭　美術展　において、美術部部員生徒の作品が見事『入選』した。作品名は『ゆめごごち』。

また、「長崎県高等学校総合文化祭　第二十回県南支部合同写真展」において写真部部員が『奨励賞』を受賞した。作品名は『石橋』。

2010年度生徒募集要項

募集定員（普通科・男女共学）……120名
入学者選抜

(1) １次入試

一般試験

	一　般　試　験
出願条件	平成22年３月中学校卒業見込みの者および中学校を卒業した者。
出願期間	１月８日㈮～１月20日㈬　　場所：事務室（９：00～16：30）
試 験 日	１月25日㈪　８：30集合
合格発表	１月28日㈭　選考結果通知書を中学校へ郵送します。　掲示はしない。
入学手続期間	１月29日㈮～３月17日㈬

特待生・優待生試験（専願・併願）

	学業特待生・優待生試験	スポーツ特待生・優待生試験
出願条件	①平成22年３月中学校卒業見込みの者。 ②成績、人物ともに優れている者。 ③学費等の免除を希望する者。 ④専願：合格した場合、入学の義務がある。 （併願：他校受験可）	①平成22年３月中学校卒業見込みの者。 ②指定競技（サッカー、ヨット、野球）の優れた技量を持つ者で、本校入学後も部活動を継続する意思を有する者。 ③学費等の免除を希望する者。 ④専願：合格した場合、入学の義務がある。 （併願：他校受験可）
出願期間	１月８日㈮～１月20日㈬　　場所：事務室（９：00～16：30）	
試 験 日	１月25日㈪　８：30集合	
合格発表	１月28日㈭　選考結果通知書を中学校へ郵送します。　掲示はしない。	
入学手続期間	○専願：１月29日㈮～２月５日㈮ ○併願：１月29日㈮～３月17日㈬	

(2) ２次試験（特待生・優待生試験は推薦・１次試験で定員を充足した場合は募集しないこともある。）

一般試験

	一　般　試　験
出願条件	平成22年３月中学校卒業見込みの者および中学校を卒業した者。
出願期間	３月15日㈪～３月18日㈭　　場所：事務室（９：00～16：30）
試 験 日	３月19日㈮　８：30集合
合格発表	３月19日㈮
入学手続期間	３月19日㈮　結果発表後～17：00、３月23日㈫　９：00～16：30

特待生・優待生試験（専願）

	学業特待生・優待生試験	スポーツ特待生・優待生試験
出願条件	①平成22年３月中学校卒業見込みの者。 ②成績、人物ともに優れている者。 ③学費等の免除を希望する者。 ④合格した場合、入学の義務がある。	①平成22年３月中学校卒業見込みの者。 ②指定競技（サッカー、ヨット、野球）の優れた技量を持つ者で、本校入学後も部活動を継続する意思を有する者。 ③学費等の免除を希望する者。 ④合格した場合、入学の義務がある。
出願期間	３月15日㈪～３月18日㈭　　場所：事務室（９：00～16：30）	
試 験 日	３月19日㈮　８：30集合	
合格発表	３月19日㈮	
入学手続期間	３月19日㈮　結果発表後～17：00、３月23日㈫　９：00～16：30	

※スポーツ特待生・優待生

1　指定競技　サッカー（男子）、ヨット（男子・女子）、野球（男子）
2　野球のスポーツ特待生・優待生については、つぎの条件が必要です。
　①野球技能優秀の上に、学業および生活態度が良好である者。
　②所属中学校長が推薦する者。

Information

■資料請求受付中

長崎総合科学大学の大学案内パンフレット「NiasStylePART.42010年度版」が話題を呼んでいる。

パンフレットのコンセプトは『学中八策』、建学の精神をモチーフに本学の教育と研究活動を八つのポイントで紹介している。

表紙モデルに伊藤舞さん（人間環境学部環境文化学科3年）を起用し、坂本龍馬に扮し誌面内で広く大学をナビゲートしている。

■TVCM配信中

長崎総合科学大学新テレビCMが完成しました。教育編と課外活動編の2種類があり、現在テレビにて配信中です。

Youtubeにて動画配信も実施中です。大学ホームページの「NiASムービー」よりご覧いただけます。

教育編

課外活動編

2010年度　学生募集要項

■大学

項目＼制度		AO（双方向）入試 AO（特待生）入試		一般入試 前期	一般入試 後期
募集定員	工学部	15		33	
	情報学部	10		24	
	環境・建築学部	10		24	
出願期間（消印有効）		9／1火 ↓ 3／12金		1／7木 ↓ 1／29金	2／16火 ↓ 3／2火
試験日		随時		2／4木 2／5金	3／7日
合格発表日		11／20金 12／18金	2／15月、3／9火 3／19金	2／15月	3／12金
手続期限		1／12火 （入学金） 1／29金 （前期分授業料等）	3／31水 （入学金および前期分授業料等）	3／1月 （入学金） 3／12金 （前期分授業料等）	3／31水 （入学金および前期分授業料等）
試験場		原則として本学		長崎、佐世保、五島、対馬、那覇、鹿児島、宮崎、大分、熊本、佐賀、福岡、松山、広島、大阪、東京	長崎、鹿児島、福岡、広島、大阪、東京
受験料		30,000円		28,000円	

項目＼制度		センター試験利用入試 前期	センター試験利用入試 後期
募集定員	工学部	25	
	情報学部	18	
	環境・建築学部	18	
出願期間（消印有効）		1／7木 ↓ 2／5金	2／22月 ↓ 3／12金
試験日		—	—
合格発表日		2／15月	3／19金
手続期限		3／1月 （入学金） 3／12金 （前期分授業料等）	3／31水 （入学金および前期分授業料等）
試験場		—	—
受験料		13,000円	

項目＼制度		留学生 前期	留学生 後期	社会人・帰国生徒	編入学
募集定員	工学部	6	若干名	若干名	
	情報学部	4			
	環境・建築学部	4			
出願期間（消印有効）		1／7木 ↓ 1／22金	2／16火 ↓ 2／23火	1／7木 ↓ 1／29金	7／1水 ↓ 2／26金
試験日		2／4木	3／7日	2／4木	随時
合格発表日		2／15月	3／12金	2／15月	随時
手続期限		3／12金	3／31水	3／12金	11/20、12/18、2/15、3/9、3/19
試験会場		長崎、福岡、大阪、東京	長崎、福岡、大阪、東京	長崎	原則として本学
受験料		14,000円		28,000円	10,000円

■大学院

平成22年4月入学者（二次募集）	
願書受付期間	平成22年2月12日㈮ ～ 2月19日㈮必着
学力試験	平成22年3月3日㈬
面接	平成22年3月4日㈭
試験場	本学
合格発表	平成22年3月11日㈭ 13時大学院掲示板
入学手続期間	平成22年3月11日㈭ ～ 3月17日㈬

■長崎総合科学大学の特待生A制度

特待生A　**国立大学よりも安い学費**

センター試験利用入試及び一般入試での成績上位者（学力、人物の優秀な者）に対して、授業料を4年間免除します。

			センター試験利用入試	一般入試
定員：29名＋若干名	工学部	前期	総得点の上位6名以内	各学科2名以内、合計6名以内
		後期	総得点の上位若干名	各学科若干名
4年間の学費合計1,720,000円	情報学部	前期	総得点の上位4名以内	各学科2名以内、合計4名以内
		後期	総得点の上位若干名	各学科若干名
（2009年度参考）	環境・建築学部	前期	総得点の上位4名以内	各学科2～3名以内、合計5名以内
		後期	総得点の上位若干名	各学科若干名

編集後記

本学の学食では長崎名物「トルコライス」が評判です。新聞・テレビでも紹介されました。一般の方も利用可能です。是非一度ご賞味ください。（T）

コンピュータの漢字変換ソフトを開発された彌永氏の講演を、本学の第3回公開講演会で聴くことができました。二十数年前は確かJISコードとかシフトJISで変換していたことを懐かしく思い出し、それをこの方が作ったのかと思うと感慨も一入。日本のものづくり技術はこういう方々が築き上げたものであることを改めて思い直しました。大学が主催する講演会やシンポジウムは各界の著名な方をお招きしています。開催はその都度ホームページで告知しますので、学生の皆さん、一般市民の皆さんどうぞお気軽にお越しください。（K）

詳細は入試広報課または大学ホームページ（http://nias.jp）参照
問い合せ先：入試広報課
☎ 0120-801-253
E-mail：adm@NiAS.ac.jp

このQRコードで
本学携帯電話ホームページにアクセスできます

※NiAS（ニアス）は、大学の英文名 Nagasaki Institute of Applied Science の略称です。